

先端研究拠点事業—国際戦略型—
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」
セミナー・シンポジウム 派遣報告書

2013年 6月 20日

氏名(ふりがな)	坊野慎治 (ぼうのしんじ)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	理学研究科・物理学第一教室・ソフトマター物理
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	博士課程後期・1 回生
メールアドレス	bono@scphys.kyoto-u.ac.jp
電話番号、FAX	075-753-3789

セミナー・シンポジウム名	Engineering of Chemical Complexity
場所 (国名・都市)	ドイツ Warnemünde
派遣期間	2013年6月8日～2013年6月14日
セミナー等の日程	2013年6月10日～2013年6月13日
URL	http://www.bcscs.de/CONFERENCES/CONFERENCE-2013/

セミナー・シンポジウムに参加することで得られた知見・議論の成果を500字程度で記述してください。スペース不足の場合は、用紙を追加してください。感想などもあれば記載してください。

平成25年6月8日～6月13日に、ドイツ Warnemünde にて行われた国際会議”Engineering of Chemical Complexity”に参加した。この国際会議は、アクティブマターやソフトマター、ネットワークといった多岐に複雑系における最先端の研究成果を報告する会議であった。

この会議で私は、”Nonequilibrium Soft Matter”において”Isotropic-nematic phase transition of liquid crystals confined in nano-emulsions”というタイトルでポスター発表を行い、活発な議論を行うことができた。特に、私が研究している液晶ナノエマルジョンの界面領域の高分子-液晶相互作用を明らかにするための実験的手法や、液晶相転移における界面相互作用を扱っている歴史的な背景とその中における私の研究の特色、ナノスケールの領域に閉じ込められた液晶の配向状態など、大変有意義な議論を行うことができた。また、たくさんの興味深い講演を聞くことができた。例えば “Self-Organization in Biological Cells”において、マイクロ流路を用いて cAMP のパルス波の振幅、周期を制御し、細胞の chemotaxis を研究したという講演があり、その画期的な実験手法は非常に興味深かった。

これらによって、今後の研究を進めるにあたって、これまでになかった新しい研究への視点や、分野にとらわれない新奇な着想を得ることができた。分野にとらわれない様々な立場の研究者の研究に触れ、また議論を行うことができ、非常に充実した会議であった。